

2018年9月4日

■エジプト政府は投資基金を設立

九門 康之

<エジプト版ソブリン・ウエルス・ファンド>

エジプト政府は総額2,000億エジプトポンド（約110億ドル）のソブリン・ウエルス・ファンド「エジプト基金」を設立する。エジプト政府によるこの種の投資機関の設立は初めてである。基金設立は大統領の承認を受けており、委員会を設置し、具体的な準備手続きに入った。基金の運営は、計画省が担当し財務省が協力する。資金は政府、内外民間企業からの出資、借入等により賄われる。

基金設立の目的は、活用されていない政府資産の有効利用を通じて、政府の新たな収入源を開拓することにある。対象資産には政府が保有する土地・建物（再開発）、工場・企業（活性化、詳細後述）が含まれる。投資対象はエジプト国内に限定し、海外の民間投資家との連携も展望する。

投資基金の設立は、財政赤字解消に向けた収入拡大策の一つと位置付けられる。エジプトの2018年度政府予算は、歳入9,892億エジプトポンドに対し、歳出1兆4,526億エジプトポンドでGDP比8.8%の赤字となっており、赤字の圧縮が急務となっている。政府は、税收増強による歳入拡大、補助金の見直しによる歳出の圧縮を図っているが、基金設立は、これらの施策に次ぐものである。

<運用方針の変化>

エジプト政府は近年、資金運用方針を変化させつつある。これまでは、投資収入を目的として外貨準備の一部を外債等で運用していたが、今回の基金設立で政府資金の運用先が国内にも広がることになる。狙いは投資収入の拡大である。投資収入は2009年以降の市場低迷で減少しており、2008/09年度（2008年7月1日～2009年6月30日）の19億ドルから、2016/17年度には5億ドル（GDP比0.2%）に減少していた。

ソブリン・ウエルス・ファンドは、産油国等が余剰資金を運用する機関として広く活用されている。資金の運用先は通常、流動性の

高い債券、株などの金融資産、国内外の企業への戦略的出資、長期運用を展望した不動産投資等である。サウジアラビアは海外資産の運用により、2017年に123億ドル（GDP比1.8%）の投資収益を得ている。

<国営企業の活性化>

エジプト基金は国営企業への投資を視野に入れ、投資収入のみならず、国内経済活性化も目指している。エジプトはUAE等からアドバイスを受けて、国営企業の運営方式を変更しようと試みてきた。エジプト基金が国営企業の株主として企業運営に参加し、株主の立場を通じて企業運営に関与することになる。また、これまでは政府が国営企業の株式を直接保有していたのに対し、独自に運営されるエジプト基金が国営企業の株主になることで、より柔軟な企業運営が可能となると期待されている。エジプト基金は最終的に、国営企業を通じて1,000億エジプトポンド（約56億ドル）の資金を集めようとしていると言われており、国営企業の株式上場や民間企業への売却に発展する可能性がある。

<海外からの投資の呼び水に>

エジプト基金は海外資本との連携も展望している。エジプト基金傘下の国営企業への出資を海外の企業に開放すれば、海外からの直接投資の呼び水となる。エジプトの国営企業はこれまで、海外からの投資の対象から除外されていた。これは、国営企業に外国資本が入ることで企業の活動内容が海外に伝わる懸念があったことと、国が直接運営する企業では海外資本との連携が難しかったためである。しかしながら、長年にわたり閉鎖的な経営を行ってきたことで、経営や技術面で劣後したことから、ノウハウを得るために海外との連携に方向転換する。

エジプト政府は国内経済活性化の施策の一つとして、海外からの直接投資（Foreign Direct Investment, FDI）の拡大にも力を入れている。FDIは海外の企業がエジプトに製造や業務を行うために投資する資金で、2017年には74億ドルがエジプトに投資されている。

（以上）